

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「【じょうほう】要約するとき」 教材名「【じょうほう】要約するとき」

2 単元の目標

考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。

(〔知識及び技能〕(2)ア)

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(C(1)ウ)

読む目的に合わせ、中心となる語や文を残して要約する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア)	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ)	①読む目的に合わせ、中心となる語や文を残して要約する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

読む目的に合わせ、中心となる語や文を残して要約する。この教材では、読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教師の独自の学校施設案内か利用可能な実物を使う。目的に必要な見出しを選び、重要な語を残しながら自分の言葉で要点をまとめる。想定する難しさは、全ページの情報を同じ長さで写す、図の印象だけで説明する。評価では、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約しているかを、読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。教師作成の短い説明文で中心と例を区別する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教師作成の短い説明文で中心と例を区別する。目的を定めて必要な語を選び、要約と原文を比べて意味が変わっていないか確かめる。選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(C(1)ウ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「短くしても残す必要があるのは、どの内容ですか」 【めあて】読む目的に合わせ、中心となる語や文を残して要約する。 〈予想される児童の反応〉 ・調べたいことの見出しを先に探したい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「短くしても残す必要があるのは、どの内容ですか」 教師作成の短い説明文で中心と例を区別する。目的を定めて必要な語を選び、要約と原文を比べて意味が変わっていないか確かめる。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・調べたいことの見出しを先に探したい。 ・絵だけでは条件が分からない。 ・詳しい情報を選んで短く言い換えたい。	教師の独自の学校施設案内か利用可能な実物を使う。目的に必要な見出しを選び、重要な語を残しながら自分の言葉で要点をまとめる。 想定する難しさ：全ページの情報を同じ長さで写す、図の印象だけで説明する。 評価では、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約しているかを、読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・詳しい情報を選んで短く言い換えたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「短くしても残す必要があるのは、どの内容ですか」。中央は、読む目的、選んだ見出しと必要な語、自分の言葉による短い要約に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

